

人間に生まれて "つながりを生きよう" 305

大悲無量常昭我

阿弥陀様はどれだけ我が儘の者であっても、  
どれだけ自分勝手な者であっても、どれだ  
け自と中心な者であっても、どれだけ人の  
こをを聞かない者であっても、大きな悲し  
みの心をもって、常に照らしてください。  
このわたしを……南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

本年もよろしく

お願い申しあげます。

昨年も、皆様方のお心によって真敬寺  
を護持相続させていただくことができま  
した、深く御礼申し上げます。

今年も変わらぬご支援、ご指導を教  
示いただきますようお願いいたします。  
皆様方のお陰で、念仏の教えを聴聞  
させていただけますことを感謝してい  
ます。

令和五年正月 小塚山 真敬寺

1月 真敬寺行事予定

- 1日(日) 修正会 早朝6時
- 3日(火) 初御講 午前11時
- 15日(日) 聞法会  
午前9時半  
竹内追悼会  
午後1時半  
城端別院法物巡回
- 16日(月) 正信偈の会  
午後2時より
- 28日(土) 役員会  
午後2時より

年忌表

2023 (令和5年)

年忌	亡くなられた年
1周忌	令和 4年
3回忌	令和 3年
7回忌	平成 29年
13回忌	平成 23年
17回忌	平成 19年
25回忌	平成 11年
33回忌	平成 3年
50回忌	昭和 49年
100回忌	大正 13年

新たな年を迎えられ、如何お過ごしでしょうか。

昨年はコロナ下ではありましたが皆様との交わりも維持することが出来ました、まことにありがとうございました、もうございました。

世相も大きくかわり始め、人と人との交わりも回復することを願わずにはおれなくなってきました。私自身、微力ながら、これまで皆様と真敬寺を護り、幾多の困難に出会わせていただき、支えていただいていたが、永年携わっていることでまだまだ気づかないことが多々あることと思います。皆様からの励まし、声かけ、叱咤、ご意見、お気づき等をいただきますよう今

### 聞法会法話の聞書

今井信悟(いまいしんご)さん

南砺市正立寺住職

本山相統講御助成会法話



「観無量寿経」の中に問題の「旃陀羅」といわれるところがあります。インドの身分制度です、1950年頃にインドの法律ではそういう身分制度(カースト)と呼ばれているものはないと言われているのですけれども、未だに差別が残っています。一番上がバラモンといわれる、政治家であったり宗教家であったり

します。次には武士階級(武器を持っている人)クシャトリア。次が商人(職人、町人)バイシャ。次が(奴隷)シュードラ、奴隷になったら同じ人間ですが値段が付けられて売り買いされるのですね、よその国でもそういうことがありました。インドでは今もこういう身分制度が問題になっていると言われています。

この「旃陀羅」と呼ばれる人はカースト制の4つの分類に入らずに、アウトカーストと呼ばれ、日本語で当てはまると不可蝕賤民チヤンダーラ、人が勝手に身分を定めて差別していた。今も法律上はそういうことは無くなってはいるはずですが、残念ながらそうはなっていない現実があるそうです。

「観無量寿経」にこの不

可蝕賤民「旃陀羅」のことが書かれてあるのですね。

文脈は聞いて知っておられると思いますが、マガダ国(王舎城の悲劇)のところですが、ある王子がクーデターを起こして、王様を閉じ込めて餓死させようとしたが、母が妨害したので怒って母のことを「賊」だと剣をとって切ろうとしたとき、王子を止めるために近くの大官の一人が注意して、その言葉に、「奥様のような皇后を殺害されると、チヤンダーラ(旃陀羅)の階級にまでなりますよ、とても王として仕えるわけにはいきません」それによって王子は恐怖を覚え、手を止め剣を納めた。

どれだけががんばっても、カーストの差別から逃れられなく生涯苦しみ続けなければならなかった当時のイ

ンドでは、王子も恐れおののいたと思います。

そういう言葉が御経に残っています。日本にも同じように差別がありました。



お釈迦様は生まれで人が差別されるのではない、とカースト差別性を否定されていますが、御経を聞かれる人の中には、いくらお釈迦様が説かれた御経の中の言葉であっても「傷つけられる」と悲しみを訴えておられます。

わたしは今までこの観無量寿経の「是旃陀羅」の部分を中心に感じずに声を出して読んでいました。それがこのようにしているんな所からこのことが問題として取り上げられて学ばせていただいたので、御経のこの部分は話の中ではメインではないのですが

、やはりこの言葉で傷つく方がおられることが問題だと思っています。そこでわたしはこの部分を科文と分けてあります。この部分は「禁母縁」というところでそこを読まないようにしています。正直それで良いのかとは思いませんが、その後お話しで自分でもそれで良いのかと疑問に思いながら話しています。

わたしは自分が差別されている意識はないからか、共に聞いていく身と言い、どこか上の立場から話しているように思います。

観無量寿経に書かれている上品上生、下品下生とあっても、私ら人間が勝手に決めていくだけで、ちょっとしたきっかけで、ひっくり返されてしまいます。



阿弥陀さんは私らが都合の良いように勝手に決めてしまつて、その勝手に聞けてしまつて苦しんでいる、そういうことから解放されていかんかと願われているのです。

今でも中々差別は無くならないのですが他人事になっていたら大間違いです、わたし自身も差別してしまうことも持っているのですからこのこととはよく心得なければならなと思っています。

観無量寿経を読まないから良い人間だとは思いません、人を比べて勝手に優劣を付けたりしてそのことを口に出して言わんとしても心の中では思ってしまったっている自分です。小さなことでも意識しなくてもだんだん積み重なって大きな差別を生んでしまっています。

親鸞聖人も観無量寿経の和讃にそのことを読んでおられ

ています。普通に和讃の中に使っておられています。御経に書かれていることだからと言われても、普通に使われておられる、差別意識が無かつたかと言われればそうでは無いと思います、ただ「いしかわらつぶてのごとくなるわれら」と本心は語っておられませんが、差別意識に考慮されていなかったことを指摘されても仕方なかったと思います。なかなか大変な話です。

本年は4月から観無量寿経に聞くことをテーマとして一年間講師に話していただきました。観無量寿経の「是旃陀羅」問題の学びになりました。これまでのことはホームページでもご覧になれます。

来年は慶讃法要のテーマ「人と生まれたことの意味をたずねよう」から聞いていきたいと思えます。

元旦 六時

新年

# 修正会

初御講は

三日 午前十一時より

行く年もまた来る年も御佛の御名を称えて送り迎えん

発行 〒 939-1664 富山県南砺市竹内 440



真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修

ホームページを開設しました

TEL 0763-52-0196 携帯電話 090-3760-5692